

つどう

まなぶ

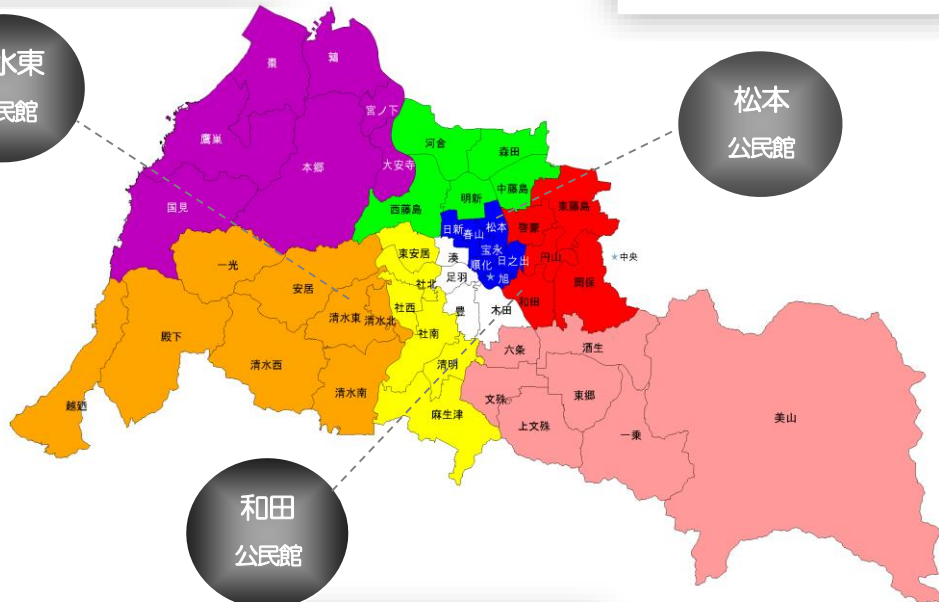
むすぶ

福井市の公民館



清水東
公民館

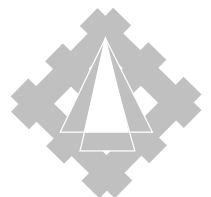
松本
公民館



和田
公民館

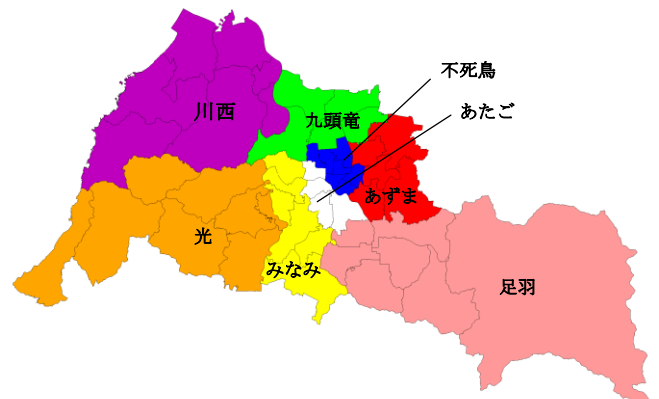


第8号



福井市公民館一覽

ブロック	No.	館名	所在地	電話番号	掲載号	ブロック	No.	館名	所在地	電話番号	掲載号	
あたご	1	木田	木田1丁目1401	36-0042	6号	光	28	安居	本堂町7-4	37-1234		
	2	豊	みのり3丁目106-8	34-0344			29	一光	下一光町6-5	37-0168	5号	
	3	足羽	足羽2丁目12-31	35-0041	7号		30	殿下	風尾町1-13	97-2377		
	4	湊	学園1丁目4-8	22-0032			31	越廼	柴崎町1-68	89-2182	7号	
不死鳥	5	春山	文京3丁目11-12	22-0057	2号		32	清水西	大森町20-43-1	98-4560		
	6	宝永	松本4丁目8-4	22-0036			33	清水東	三留町14-11-1	98-4510	8号	
	7	順化	大手3丁目11-1	20-5458			34	清水南	風巻町21-17	98-4590		
	8	松本	文京1丁目29-1	22-0085	8号		35	清水北	グリーンハイツ5丁目131	98-5477		
	9	日之出	四ツ井1丁目7-24	54-0040			川西	36	大安寺	四十谷町5-20-1	59-1001	3号
	10	旭	手寄2丁目1-1	20-5364				37	国見	鮎川町195-7	88-2004	4号
	11	日新	文京5丁目1-8	21-7225	3号			38	鶉	砂子坂町5-58	83-0433	
みなみ	12	清明	下荒井町8-414	38-0043		39		棗	石橋町4-14	85-1495		
	13	東安居	飯塚町6-18	35-9566	4号	40		鷹巣	蓑町16-2-1	86-1001		
	14	社南	種池2丁目206	35-9559		41		本郷	荒谷町19-55	83-0582	6号	
	15	社北	若杉4丁目308	35-9111	創刊号	42		宮ノ下	島山梨子町22-9	59-1150		
	16	社西	久喜津町65-23	34-7910	2号	足羽	43	酒生	荒木新保町37-9-5	41-2503		
	17	麻生津	浅水三ヶ町1-93	38-4383	6号		44	一乗	西新町1-31	43-2001		
あずま	18	和田	御幸4丁目9-20	22-0038	8号		45	上文殊	北山町34-1	41-0516	3号	
	19	円山	北今泉町7-12	54-0048	5号		46	文殊	太田町4-11-2	38-0550	2号	
	20	啓蒙	開発1丁目2105	54-0046			47	六条	天王町43-4	41-1001		
	21	岡保	河水町10-13	54-2519	7号	48	東郷	東郷二ヶ町6-13-1	41-0306	5号		
	22	東藤島	藤島町48-1-1	54-0039		49	美山	美山町2-12	90-7111			
九頭龍	23	西藤島	三郎丸1丁目1410	22-0040		50	中央	手寄1丁目4-1	20-5459	創刊号		
	24	中藤島	高木町64-11-4	54-0045								
	25	河合	川合鷺塚町9-18	55-0001								
	26	森田	下森田藤巻町2	56-0195	創刊号							
	27	明新	灯明寺町35-1-1	22-7880	4号							



《福井市の公民館に思う》



公民館に期待する

元福井市教育委員会教育長 渡辺 本爾

平成 10 (1998) 年から 3 年間、福井市豊小学校長として勤務したが、学校の教育方針として「地域との連携」を大きな柱として掲げた。公民館の運営審議会に出席すると、いつも「学校の現状」をお話しする機会があってありがたかった。そこで、子どもたちを地域に出かけて行って学ばせたいこと、地域の方が学校へ来て子どもたちを教えてくださいの両方をお願いできたのである。また、『公民館だより』の中にも「学校からのお知らせ」欄を設けてもらったりした。

その後、平成 13 (2001) 年 4 月から 8 年間、教育長として皆様方のお世話になったが、いつも私の思いの中にあっただのは、地域発展の大きな役割を学校と公民館は共に担っているということである。子どもが元気であること、地域の大人が元気であることが一番である。そのための学校であり、公民館なのである。行政は条件整備に取り組むことだと考えた。

学校における学校教育と公民館における社会教育、この両者が相まって子どもから大人まで豊かな学びが生まれ、個人が地域が市全体が豊かな生活を創出できるのである。今日は生涯学習の時代である。まさに子どもから大人までなのだが、それぞれの学校が特色ある学校教育を目指すのと同じように、それぞれの公民館も特色ある社会教育・生涯学習を創造しているのである。全国的には、公民館よりコミュニティセンターへという主張もあるが、福井市の公民館はその始まりから社会教育・生涯学習を基本にして、市民力の向上にひたすら地道な努力を重ねてきたのである。

勿論、まちづくり・地域づくりという地域コミュニティの発展、活性化のために、公民館の果たす役割は大きく一層重要になっていることも事実である。少子高齢化の時代、地域コミュニティの衰退から脱却するため、様々な工夫や取組がなされている。その中核としても公民館は存在しているのである。一つ地区行事を取ってみても、その企画・運営・実施全てに公民館に集う個人や団体の力が結集するのである。それは、一地域の話ではなく福井市発展の原点なのではなからうか。

公民館は、不思議な存在である。よく福井市の公民館は半官半民型だと言うが、個人と個人をつなぎ団体と団体をつなぎ地域と行政をつなぎ地域と地域をつなぐ。公民館長や主事さん方の努力によって、公民館が架け橋となりつなぎ役となり、輪(和)づくりの中心(核)となって、地域を一つにまとめていく。1 小学校区に 1 館体制という、きめ細かな配置を生かして網目のように生き生きとした人々の絆が生まれる。

まとめれば、我が福井市の公民館は、①人々の教育を重視し ②まちづくり・地域づくりを推進し ③行政と地域を一体化して 福井市発展の中心的な役割を担って、日々切磋琢磨していると言えるのである。その期待するところは益々もって大なのである。

「再発見、躍進のまつもと」

— 伝統と未来を創るマンパワー —

松本公民館

1 松本地区の概要

松本は、1960年代頃までは田園風景が広がる地区であったが、福井市中心部に隣接していることもあり市街化が進み、商業地区・住宅地区として発展してきた。今では、住宅、学校、病院、商店などが程よくミックスし、住みよさや利便性に富んでいる地区となっている。また、2015年には、えちぜん鉄道「まつもと町屋駅」が新設された。

松本地区は、古来より「北陸道」の要所として発展してきたので、地区内には史跡や歴史的なエピソードが数多く残っている。それは、今、地区の宝である。

「蓮如上人御影行列」の通過、結城秀康が築いた福井城下の出入り口「加賀口御門址」、北陸道の「一里塚跡」や旅人の安全を見守った「どんどの地蔵」、暴れ川の底喰川にかかる「千日橋」、福井城の堀の名残でもある「芝原用水分流」などがある。また、明治初期に羽二重織りを福井に導入した村野文治郎の工場が簸川（ひかわ）神社近くにあったことから、その当時、羽二重産業が盛んであったことも伺える。

その他、1900年から1966年まで県農事試験場が現松本公民館の場所にあり、そこでコシヒカリが誕生した。また、福井農林学校や福井養蚕試験場などが、かつては地区内にあった。

近年では、ノーベル賞を受賞された南部陽一郎博士や本屋大賞の宮下奈都氏が松本地区の出身であり、このことも地区の誇りに加わった。

平成29年4月1日現在 5,365世帯、12,131人で県内最大の県営住宅「町屋団地」があり、人口規模は市内第6位である。

2 ふれあって人のぬくもりを感じるまちに

(1) 新しい名物の発掘～コシヒカリは松本生まれ！～

コシヒカリの開発は、松本地区にあった県農事試験場（県農業試験場の前身）で1948年に始まった。コシヒカリの株は、福井地震の時のひび割れやその後の洪水など、様々な災害に見舞われながらも、この地がかつて沼地であったことが幸いして、しっかりと根を

おろして生き残ることができた。松本の風土がコシヒカリの誕生に欠くことのできない条件を提供したのであろう。しかし、今では、地区内に田んぼがほとんどなく、このような事実を知る人も少ない。

そこで、2016年がコシヒカリ誕生60周年の年に当たることから、松本地区を生誕地としてPRし、合わせて米のおいしさを見直してもらおうと、「米料理コンテスト」を開催した。たくさんの家庭からアイデア料理のレシピが寄せられた。

今後、地区の名物メニューとして広めていくとともに、このような活動を通して、コシヒカリと地区への愛着が一層大きくなっていくことを期待している。



【コシヒカリを使ったアイデア料理の調理】

(2) 地区の絆を深める3つのまつり

地区内の子どもから壮年、高齢者まで、幅広い世代が交流し絆を深め、松本地区が活性化していくことを願い、松本地区をあげて、大きなまつりを年3回開催している。

1つ目は公民館主体の「夏まつり民踊大会」（7月）で、フェニックスまつりの協賛である。夏の一夜の民踊大会に地区民が家族総出で参加し、「松本音頭」をはじめ、いろいろな民踊で交流を深めている。夜店ならではの雰囲気や、最近ではペットボトルを使ったエコキャンドルによる幻想的な場を楽しんでいる。

2つ目は、地区内各種団体の協働で開催する「松本まつり」（10月）である。2016年のテーマは「ツナグプロジェクト～輪っしょい松本～」で、三世代交流や地域のつながりを深めたいとの思いを込め開催した。

前夜祭の「輪っしょい松フェス」では、子どもたちが地域のお年寄りの家を回って、願い事を絵馬に書

いてもらう「ハロー大作戦」(育成会)、キャンプファイヤーと千人鍋(PTA)などを目玉企画として行った。また、当日は、園児、小・中学生や講座生、地区団体による発表・展示、バザーなど、たくさんの企画が行われた。多くの方が来場し、



【大寒願かけ：護国神社での禊】

のあちこちで楽しそうな笑顔が見られた。

最後は、「松本まつり冬の陣大寒願かけ」(1月)である。大寒にあわせ、身体に「願い布」を結んだ駆け男・駆け女が、地区内の7つの神社を巡り参拝するものである。各神社では、近隣の方々が甘酒やみかんなど工夫を凝らした温かいおもてなしをしたり、声援を送ったりした。終着の護国神社では水をかぶって禊をし、その後、鍋を囲んで親睦を深めた。

2014年に地区有志が100年、200年と続く伝統行事にしようと企画し始まったもので、年々、スタッフ・地区の方・参加者が一体となり、松本地区の絆の深さを感じることができるイベントになってきた。2017年1月の大寒願かけは118名が参加した。

今後、地区の様々な宝を発掘し、毎年少しずつパワーアップさせながら、地区の活性化を図りたい。

3 地区の宝・ニーズの発掘～公民館教育事業～

松本公民館では、小さな子どもから高齢者まで、幅広い様々な地区住民の方の多様な学習ニーズに対応していきたいと考え、地域の課題を的確に把握し、生活的・地



【シンボルマーク】

域的・現代的課題を取り上げた教育事業を企画することを心がけている。また、公民館職員の女子力を発揮し、たくさんの方が「楽しみながら参加してみたい」と思ってくださいようなネーミングや内容、実施時期などを工夫している。

平成29年度は、次の教育事業を行う予定である。健康と長寿の年間を通した講座「たぶのき大学」。60代を対象とした参加型の「輝きたい」。概ね40～60歳対象で部活をイメージした内容の「松本組」。地区の

まつりなどに一緒に参加し仲間づくりができる青年事業「夢∞松(ゆめまつ)」。講師の解説を聞き雅な時を過ごす「原文で読む源氏物語」。着物を着て日本文化を学び活動する「着物で街へでかけよう」。お菓子やお弁当づくり、恒例の川遊びなどで様々な体験ができる「子ども教室」。子育て中のお母さんのための「～ママと子どもの楽しい時間～松ぼっくり」。新しくパソコンを始める方への「IT相談会」。食や運動美と健康を学ぶ「～忙しい女性のための美と健康の講座～自分磨き」。



【子ども教室】

また、郷土学習は地区の中央を流れる底喰川を知り地区の宝として将来に引き継ぐため、「～郷土学習～底喰川を美しくしよう」とした。学んだりダッグレースを開催したりして川に親しむ予定である。

その他、地域に関連させながら本について語り合う「文学カフェ～宮下奈都の世界」も開催する。

そして、昨年度末に開催した「健康講座骨盤コンディショニングヨガ」が好評だったことを受け、今年度はそれを「骨盤の夕べ」という講座に発展させ、骨盤に絡めた健康講座やイベントを開催する予定である。

このように、新しい発想の提案を取り入れ、世代を超えたつながりをつくっていききたい。

4 終わりに

松本地区は、戦後、住宅地として開発が進んできたこともあり、人と人のかかわりを重視し人と地域をつなぐ参加型行事に力を入れてきた。

これからも、人材豊富な松本地区のよさを活かした様々な企画を行い、実施していきたいと考えている。そして、地域の人たちとともに楽しみ、協働し、一層のつながりを深めていきたい。

地域力の向上こそが次世代への大きなプレゼントになると確信している。

松本公民館はスタッフ全員が女性です。たくさんの方が集う公民館で、いきいきと活動されている館長・主事・管理人の方々の姿がとても印象的でした。これからも、女性の視点を活かしてアイデアと行動力で、人と人が楽しく繋がり合う「活気ある松本」をめざしていってほしいと思います。

新しい公民館活動の更なる発展をめざして

— 楽しく集う地域コミュニティの場 —

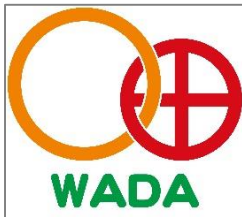
和田公民館

1 和田地区の概要

福井市東部に位置し、南北に国道8号線、東西に国道158線が走る、きわめて交通の便の良い地区である。以前は緑豊かな田園風景が広がっていたが、現在は住宅地・商業地として急速に都市化が進んでいる。

また和田地区には、福井市防災センターや福井市東消防署があり、市民の防災の拠点としても期待されている。

和田地区の中心には、総社和田八幡宮がある。平安時代中期に、清和源氏の祖「源満仲」が創建したとされる神社である。毎年、節分前の日曜日には、冷水を浴びて身を清める「大寒みそぎ」が行われ、県内外から多くの人を訪れる。



公民館は、平成28年4月に現在の地に移転・新築した。この機に、住民から公募した和田地区のシンボルマークが誕生した。

和田の“和”は地域の団結や協力を意味する“輪”でもある。2つの重なり合った円で地名を表すとともに、ローマ字の緑色は和田地区の自然を、円の赤色とオレンジ色は地区の協調と発展を象徴している。

平成29年4月1日現在、世帯数は4,546戸、人口は11,253人である。当地区も、近年は核家族化が進む傾向にある。

2 公民館の特色ある取組

公民館の新築に合わせて、未来の地域づくりを見通し、「和田地区



活性化委員会」を設置した。委員には、小学校PTA役員や青年グループの代表者など若い世代も加わっており、地域コミュニティ活性化事業の企画・運営、美しい生活環境と安心安全な地域づくりなどを協議していく場となっている。

地域ぐるみで和田地区の魅力を再発見し、住民が集う行事を手づくりで工夫している。そのいくつかを紹介していきたい。

(1) 地区の歴史を語る「くちパク和いわい劇団」

この劇は、異世代の交流が期待できる「敬老会・ふれあいまつり」の場で共通の話題になるものを披露したいという気持ちから考え出された。

今年で6年目になり、毎年工夫を凝らして、地区に関する内容を素材に創作劇をつくりあげている。



【くちパク劇「濡れた石仏さま」】

事前に録音したセリフに合わせて、やや大げさに身ぶり・手ぶりで演技をするので、誰でも気軽に参加できる。

小学生から70歳代の高齢者まで、幅広い世代が公民館に集まって練習を重ねている。音声は調整ができるので観客にはっきりと伝わること、演じる側は体全体で表現できることなどが、「くちパク劇」の魅力である。近年は、公民館の教育事業活動として定着してきており、計画的に練習を行いながら本番に備えている。今まで、地区の歴史や伝統、空襲など多様な題材を取り上げてきた。

昨年9月に実施された5回目の劇は、5月頃から練習や小道具作りを始めた。脚本や稽古指導も和田地区の住民が手掛けている。

本番では、出演者の熱演と会場の温かい雰囲気の中で全員が笑いに包まれていた。地区民に一体感が生まれ毎年大盛況の催しとなっている。

(2) 「れんげ和ん田あ〜らんど祭」での触れ合い



自治会連合会や、まちづくり委員会などの各種団体と連携し、毎年5月には、美しく咲き揃ったレンゲ畑の中で地区民が触れ合う機会を企画・運営している。和田中町（福井県済生会病院北側）の約1.2ヘクタールの休耕田で開催され、平成29年度で11回目を迎えた。大勢の家族連れが訪れ、広い畑の中でトラクターの乗車体験を楽しんだ。

和田八幡宮の風陣太鼓で始まり、消防音楽隊の演奏・地区の中学校バトン演技・フラダンス・紙芝居など、多彩なステージ発表を繰り広げる。また、子どもたちが楽しめる体験コーナーもあり、おもしろ自転車の試乗を楽しんだりヤギと触れ合ったりして、一日中賑わいを見せていた。

3 対話により生まれる“心のつながり”

公民館には、玄関横に日当たりの良い談話室が新設された。誰もが訪れやすく、住民同士が気軽に交流できるスペースとして配慮されている。

また、1階の和室では毎月2回、若い母親と乳幼児を対象にした子育て支援事業「よちよちくらぶ」を実施している。育児相談はもちろん、母親同士の情報交換や親子の居場所づくりなどを目的としている。今年度は、「親子リトミック」や「わらべうたベビーマッサージ」など、興味深い内容を計画している。

一方、環境美化活動として、6月には「プランターの苗植え」、11月には「レンゲの種まき」、3月には「足羽川清掃」など、地域ぐるみで触れ合いながら実践している。

和田の“和”は、「団結・絆・つながりをより強くしていく」ととらえ、新しい出会いや仲間との“和と

輪”を大切にしようという気持ちで取り組んでいる。

4 「文部科学大臣賞（全国優秀館）」の受賞

これらの地道な実践が認められ、平成28年度末には、文部科学大臣賞（全国優秀館）を受賞した。全国の優良公民館の中から5館が選ばれ、その後の最終審査で、全国優秀館に決定した。

地区の歴史や暮らしぶりが、手づくりの劇を通して地域住民に還元され役立っていること、和田地区の名物（自慢）として「くちパク劇団」や「れんげ和ん田あ〜らんど祭」が定着してきたことなどが、高く評価されたと考えられる。



【公民館窓口付近の掲示物】

5 終わりに

和田地区民のスローガンである「和田発展不已(やまず)」を合言葉に、積極的に多くの事業に取り組んでいる。

特に、異世代交流を通して地域がますます活性化するように努めていきたい。そのためには、和田地区の大切な宝である歴史や伝統を継承し、若い世代に伝える事業にも挑戦するつもりである。

自分たちの手で行動を起こすことをモットーにし、それによって“何かが生まれ”“何かを得る”と信じている。

和田地区のシンボルマークにもあるように、地区民の間にすばらしい“和”が生まれ、大人も子どもも共に楽しく笑顔で集える地域づくりに取り組んでいきたい。この積み重ねが、和田地区の発展につながっていくものと考えている。

和田地区の魅力あふれる取組は、決して一朝一夕で築かれたものではないことを、館長さんのお話から感じ取ることができました。これらを大切に伝承させ、よりいっそう地区民の意識を高めながら、“ふるさと和田を愛する心”を育てていってほしいと思います。

すげ笠と子どもを中心に据えた公民館活動

清水東公民館

1 清水東地区の概要

清水東地区は、福井市西部を流れる志津川と日野川の合流地点から南の丹生山地への入り口に位置している。点在する低い丘陵には弥生時代後期に造られた小羽山(おぼやま)古墳、古墳時代に造られた前方後円墳の御城山(おしろやま)古墳など数多くの遺跡が確認されている。

志津川と日野川に挟まれた低湿地で水害がひどく稲作にあまり頼れなかったため、ほとんどの町内ですげ笠作りを行ってきた。最盛期には15万個にも達し、国内だけではなく東南アジアにも輸出されていた。今では衰退し需要が見込めない状況となっている。失われつつあるすげ笠の伝統を守り、引き継いでいくため、「すげ笠の郷」としていろいろな取組を行っている。

平成18年2月1日に清水町が福井市と合併し、上天下町、下天下町、小羽町、三留町、清水杉谷町、田尻栃谷町、竹生町、清水町、和田町、ホープタウン田尻町の10町内が清水東地区として新たなスタートを切った。7年前に完成した公民館を拠点として、伝統を大切にする活動や、子どもに焦点を当てた活動を通じて、町内間の連携や住民間の交流を積極的に進めていく活動を目指している。

2 すげ笠を中心に据えたまちづくり

(1) すげ笠作りの伝統を守る

朝宮橋を渡り清水地区に入ると、すげ笠のモニュメントが目に入る。清水東地区の各集落は長年にわたって、すげ笠の生産地として、地域の伝統文化のシンボルとして、すげ笠を清水東地区のまちづくりに生かしてきている。

すげ笠作りは、江戸時代から、農家の冬の副業として盛んに作られ、大きな収入源になっていた。しかし、需要が減少したため、昭和初期に約400人いた職人は10人ほどにまで減少した。清水杉谷町では、1989年に「越前菅笠を守る会」を立ち上げ、伝統を守り続けている。

公民館では、すげ笠を作る後継者を育成するために、10回の講座を開催している。竹を使った骨組み作りやすげを縫い込んでいく作業に取り組んでいる。すげは、湿気がないとすぐに折れてしまうので、講座は、冬に開催されている。平成28年度は、15名が受講した。すげ笠作りには、かなりの技術が必要なため後継者になるためにはもうしばらくの研鑽が必要であるとのこと。

また、毎年清水東小学校では、5年生を対象に、すげ笠作りの体験教室を開催している。公民館が講師を選定し、小学校と日程等を調整して、講師を小学校に派遣している。講師は、児童に、竹で骨組みを作り、丁寧にすげを縫い込んでいく昔ながらの作り方を指導している。5年生は、すげ田でのすげの刈り取りやすげの日干しの作業も地域の方々で行い、清水東地区の伝統であるすげ笠を守る活動に取り組んでいる。



(2) すげの郷サマーフェスタ

毎年7月に、すげの郷サマーフェスタを開催している。実行委員会を立ち上げて、スタッフ150人以上で取り組んでいる。スタッフは、運営審議会委員、自治会長、自治会から推薦された公民館活動推進委員、過去に公民館活動に協力した公民館活動協力委員、各種団体・自主グループで構成されている。公民館活動推進委員と公民館活動協力委員は、清水東公民館独自の委員である。平成28年度には、7月23日(土)に開

催した。「すげ笠音頭」制作30周年と合併10周年を記念して、仙台市在住の民謡歌手の白井幸子氏を招いて「すげ笠総踊り」を行った。サマーフェスタは、午後4時から午後8時30分まで開催され、バザーコーナー、ゲームコーナー、展示販売、流しそうめん、紙風船宝探し、自主グループ発表など盛りだくさんな内容である。清水東地区には約1800人が住んでいるがこのフェスタには、500人以上が参加している。住民の参加率の高い行事である。午後7時から始まる「すげ笠総踊り」は、幼児から年配の方までが参加して踊り、その様子は壮観で実に楽しそうである。

3 子どもを中心に据えた活動

公民館では、子ども未来部という部会があり、地区の育成会と協力して、子どもを対象にした活動が充実している。「こいのぼりウォーク」、「いかだ作りといかだで川下り」、「ウォークラリーとカレー大会」などである。スポーツ少年団に所属していない子どもを対象にした「東っ子自然たんけん隊」もある。

「こいのぼりウォーク」は、親子で田んぼ道を20分程度歩き、小羽ラブリバーで設置されているこいのぼりを画用紙に描き、周辺の草花を切り貼りして作品を仕上げていくものである。昨年度は、親子で85名の参加があった。



「いかだ作りといかだで川下り」は、こいのぼりに使用した竹を再利用していかだを作り、ライフジャケットを着ていかだで川下りをするもの。小羽ラブリバーは、水門があるので水位を調整でき、また、水門で囲まれているため川に流されることがなく安全である。

子どもたちは、順番待ちをしている間に自転車を改良したいかだで遊んだり、川に飛び込んだりして楽

しんでいた。子どもに人気の行事で、清水東小学校の半分の子どもが参加した。



「東っ子自然たんけん隊」では、年間14回程度の活動があり、多くの子どもが参加して楽しい思い出を作っている。毎年9月に1泊2日で親子キャンプを行っている。近くのSSTランドでキャンプを自分たちで設営し、虫除けスプレーを手作りし、火をおこし、カレーライスを作る。食事の後片付けの後には、キャンプファイヤー。子どもたちは、火の勢いに圧倒されていたが、火の偉大さやありがたさを感じ取っていた。

4 終わりに

清水東地区は、10町内で構成されている。しかし、小学校区が何度も変更されたことがあり、町内間の交流が希薄であった。平成22年4月に清水東公民館が現在の地に新築移転したときから、公民館を拠点として、町内間の連携や、住民同士の交流を図る活動に取り組んできた。「清水東地区・清水東小学校合同体育大会」、「自治会対抗ソフトボール大会」等のスポーツ大会、地区内を美しくするための「花壇コンクール」等を全町内参加を原則に行っている。まだ、7年しか経過していないが、いろいろな行事や講座への住民の参加が多くなっていることを実感している。今後も、地区の美しい自然環境、史跡、伝統を大切にしながら、積極的に住民同士の交流を進めていく活動に取り組んでいきたい。

「こいのぼりウォーク」は、清水東地区の美しい風景を映像ではなく、五感で感じた風景として、子どもたちの心に記憶してほしいという願いから行われているということです。ゆっくり歩くことで、地区内のすばらしさの再発見につながっているものと思います。

福井市の公民館のあゆみ（その7）

11. 福井市公民館50館体制（地域コミュニティの中核的な活動拠点としての公民館）

○平成18年2月1日 美山・越廼・清水の各町村が合併し、新福井市がスタート

福井市の公民館体制にならって小学校区に1公民館とし、清水地区に4館、越廼地区村に1館、美山地区に1館と計6館の公民館体制を整え、43の地区公民館から49の地区公民館となった。ただし、美山地区は小学校が3校あるが歴史的背景もあり、例外として1つの公民館と6つの分館という体制で地域の生活に密着したきめ細かな活動を目指した。

合併した清水、越廼、美山の各公民館は、今まで町村の役場が行っていたことを、住民主体で企画運営しなければならないことに、公民館職員も住民も戸惑いながら公民館運営を行っていった。しかしながら、少しずつではあるが公民館職員の熱意で住民の意識も徐々に変化し、地域の特色ある活動を住民と一緒に展開し始めた。

○平成19年4月19日 新中央公民館が手寄再開発ビル「AOSSA」にオープン

昭和45年に順化公民館との併設で誕生した中央公民館が、福井駅再開発事業に伴い駅東に建設された複合ビル“アオッサ”の5階に移転し、非常勤の館長と市職員の副館長が着任するとともに、地区公民館と同じ立場の主事が3名から6名に増員され、新体制となった。そして、同年廃止された福井市勤労青少年ホームと福井市勤労婦人センター、青年の家の3施設の事業もこれまでの中央公民館の事業や役割に加えて引継ぐことになった。

全市民が対象で、独自性のある事業、先駆的・モデル的事业・リーダー養成の事業・青年対象の事業、連絡調整の福井市公民館連絡協議会、福井市公民館運営審議会連絡会の事務局等の多岐にわたる仕事を受け持っている。

このように、福井市50公民館体制を迎え、これまでの事業のさらなる発展が図られ、行政主導によるまちづくり事業と公民館独自の地域づくり活動とを連携させて展開し、地域全体の取組を行っている。平成19年には、「夢・創造事業」が「誇りと夢・わがまち創造事業」と名称を変えて実施されるようになり、地域の特色を生かした住民主体のまちづくり事業に対し助成することになった。個性豊かな地域をつくるとともに、地域の課題解決や活性化につなげる力を培ったり、学生グループと地区まちづくり組織の協働により新しい視点でのまちづくりを企画したりして事業を推進してきた。

- 平成18年 春山公民館が優良公民館として文部科学大臣より表彰を受ける。
子どもの安全安心のため地域で見守る見守り隊の一層の強化や、「安全安心のまちづくり」のための防犯活動を活発に展開し、隣接する地区と連携した広域的な活動にも発展させている。
- 平成18年 さこう工務店（酒生地区青年グループ）が、地域青年実践大賞奨励賞を受賞する。
- 平成19年 麻生津公民館が優良公民館として文部科学大臣より表彰を受ける。
県立音楽堂を生かした住民による「ハーモニーあそうづアンサンブル」が誕生。秋には「観月の夕」が開催されており、地域の各種団体が集結して企画運営にあたり、小学生の歌声やクラシック、伝統的な雅楽により幻想的な夜を繰り広げ、音楽を通して地域の人たちが連帯意識を高めている。
- 平成19年 夢∞松（ゆめまつ）（松本地区青年グループ）が、地域青年実践大賞奨励賞を受賞する。
- 平成19年 全48地区（一光地区を除く）に、子育て支援委員会が設立される。
- 平成19年 放課後子ども教室推進事業を開始する。

公民館では少年や青年、成人や高齢者といった学習対象者を絞って学級、講座を実施する対象別教育事業と年齢や性別による対象者の範囲を定めることなく一貫したテーマを持って学級や事業を開催する目的別教育事業を展開してきた。

平成21年度には、市が対象別教育事業から目的別教育事業への移行を打ち出して、平成24年からの完全移行を図り、公民館教育事業が以下のように細かく11項目に分類された。

- ・家庭教育
- ・青少年健全育成
- ・若者地域参画事業
- ・健康長寿の学習
- ・多文化共生事業
- ・市民IT事業
- ・環境意識高揚事業
- ・防災安全事業
- ・郷土学習事業
- ・ボランティア促進事業
- ・人材育成事業

「福井市の公民館」 ～つどう まなぶ むすぶ～

創刊号から最新号までを福井市中央公民館ホームページで

ご覧いただけます。



<http://www1.fctv.ne.jp/~cyuou-k/sub5.html>



中央公民館ホームページ

QR コード

第8号 掲載館

公民館名	住所	電話番号	メールアドレス
松本公民館	〒910-0017 福井市文京1丁目29-1	(0776) 22-0085	matumo-k@mx1.fctv.ne.jp
和田公民館	〒910-0854 福井市御幸4丁目9-20	(0776) 22-0038	wada-k@mx1.fctv.ne.jp
清水東公民館	〒910-3608 福井市三留町14-11-1	(0776) 98-4510	sihiga-k@mx4.fctv.ne.jp

福井市の公民館 第8号編集委員

中央公民館運営審議会委員	鋸屋恵美子・中嶋貴美江
生涯学習室	吉岡 努
社会教育指導員	稲葉 友昭・吉田 郁子
	嶋田 直美・田中 政広
中央公民館	平馬 吉隆・小清水直美
	田村 榮子・塩崎めぐみ



福井市の花 あじさい

公民館の歌 (自由の朝)

山口晋一 作詞
下総皖一 作曲

快活に ♩ = 104

一. へ いわの はるに あたらしく
二. こ ころの はなの に おやかに
三. は たらく ものの や すらかに

どを おこす よろこびも こうみんかんの
きょうどに いきる たのしきも こうみんかんの

つどいからどきま けぼあうをこむろなごつと やかし
つどいからどきま けぼあうをこむろなごつと やかし
つどいからどきま けぼあうをこむろなごつと やかし

にい じぶあ ゆんすのの あいさすみら たくそ えとて うう

公民館の歌 (自由の朝)

山口 晋一 作詞
下総 皖一 作曲

一. 平和の春に あたらしく
郷土を興す よろこびも
公民館の つどいから
とけあう心 なごやかに
自由の朝を たたえよう

二. 心の花の におやかに
郷土にひらく ゆかしさも
公民館の つどいから
希望を胸に 美しい
文化の泉 くみとろう

三. 働くものの 安らかに
郷土に生きる たのしさも
公民館の つどいから
まどいになごむ ひとときに
明日への力 そだてよう

公民館の歌 自由の朝 について

昭和21年(1946年)7月、文部次官通牒により「公民館の設置」が奨励され、これを受けて9月には、「公民館設置促進中央連盟」が官民の協力で結成されました。

この連盟と毎日新聞社が、文部省後援により実施したのが、公民館活動の理念を示す「公民館の歌」の歌詞の全国募集です。全国からの1,017件の応募から作家の川端康成、文部省(当時)、日本放送協会、毎日新聞社、日本レコード協会などの代表による審査団によって選ばれたのが、この歌詞です。

なお、作曲者の下総皖一は明道中学校、藤島高等学校の校歌を作曲しています。

福井市の公民館

監修 福井市生涯学習室
発行 平成29年6月
福井市中央公民館
〒910-0858
福井市手寄1丁目4-1
TEL 0776-20-5459
FAX 0776-20-1538
Eメール: cyou-k@mx1.fctv.ne.jp
<http://www1.fctv.ne.jp/~cyou-k>